

研究 成 果 報 告 書

(ふりがな) もてき じゅんこ
氏 名 茂木 淳子
現 職 (上越市立大手町小学校 教諭)
修了年月 平成 20 年 3 月 教育専攻 言語系コース(英語)

研究テーマ：プロジェクト型外国語活動が高学年児童に与える効果

1. はじめに

平成 23 年度から、小学校高学年において、外国語活動が本格実施となった。これまでの調査によれば、5 年生では英語に対する意欲は維持されるものの、6 年生ではそれが低下してしまうことが明らかになっている。

そこで、6 年生の意欲を損なうことなく外国語活動を進める方法を探りたいと考えた。プロジェクト型外国語活動では、課題（タスク）を解決するというゴールがあることで、児童は明確な目的意識をもち、活動を進め、活動への興味を持続できる。また、児童自身が何をしたいか、何をテーマにしたいかを決定することで、児童が主体的に活動に取り組み、達成感や充実感を生み出すことを期待する。

2. チャレンジタイム

児童の主体性を大切にしたい外国語活動を展開するため、「チャレンジタイム」を考案した。この「チャレンジタイム」とは、次のような活動である。この「チャレンジタイム」を解決すべきゴール（課題）とし、どのようなことを話題としたいかという事前アンケートに基づいて、外国語活動のカリキュラム（資料 1）を作成した。

- ① 学期末に、それまでの外国語活動のまとめとして実施する。
- ② 面接の部屋を用意し、そこで ALT と子どもが 1 対 1 で会話を楽しむ。
- ③ 話す内容は、基本的にはその学期に学習した内容を主とするが、個人の能力に合わせて、自由に話題を決めることができる。
- ④ 規定の時間（本研究では 1 分間）、会話を続けようとする。
- ⑤ 英語で表現できない部分は、絵や動作などの非言語を用いてコミュニケーションを図る。

3. 成果と課題

ALT の先生と話すのは、緊張する！ 英語は難しいけど、やりがいがあると思います。ALT の先生は私たちの言葉を理解しようとしているし、私も ALT の先生の言葉を理解したいなあと思います。チャレンジタイムはドキドキするけど、すごくやりがいがあって、やってよかったと思います。英語を理解したり、話せるのはかっこいいし、自慢できるので、これからも一生懸命取り組みたいです。
(児童作文より)

事後アンケート（外国語活動に関する意識調査・ARCS 動機付けモデルによるアンケート）の結果（資料 2）、児童にとって十分に満足できるプログラムであったといえる。今後は、“Hi, friends”を活用した外国語活動にチャレンジタイムを導入し、その効果を検証したい。

資料1

5年生 1, 2学期のカリキュラム

	単元名	時数
チャレンジ1	何色が好き? : Do you like ~? What color do you like?	3時間
チャレンジ2	お国はどちら? : Where are you from?	2時間
チャレンジ3	行ってみたい国はどこ? : Where do you want to go? I want to go to~.	4時間
チャレンジ タイム	チャレンジタイムの準備をしよう ~ MY E BOOK 作り ~	1時間
	1学期のチャレンジタイム	1時間
チャレンジ4	好きな教科は? : What subject do you like?	4時間
チャレンジ5	好きな〇〇は何? : What 〇〇 do you like?	5時間
チャレンジ タイム	チャレンジタイムの準備をしよう ~ MY E BOOK 作り ~	1時間
	2学期のチャレンジタイム :	1時間

6年生 1, 2学期のカリキュラム

	単元名	時数
チャレンジ1	私のプチ自慢 : I'm proud of ~.	3時間
チャレンジ2	お国はどちら? : Where are you from?	2時間
チャレンジ3	行ってみたい国はどこ? : Where do you want to go? I want to go to~.	4時間
チャレンジ タイム	チャレンジタイムの準備をしよう ~ MY E BOOK 作り ~	1時間
	1学期のチャレンジタイム	1時間
チャレンジ4	好きな教科は? : What subject do you like?	4時間
チャレンジ5	好きな〇〇は何? : What 〇〇 do you like?	5時間
チャレンジ タイム	チャレンジタイムの準備をしよう ~ MY E BOOK 作り ~	1時間
	2学期のチャレンジタイム :	1時間

外国語活動に関する事後アンケート

